

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス みらいとらい		公表日		令和7年12月8日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・運営基準以上のスペースでサービス提供を行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・障害と特性や発達段階に応じて個別での体制が取れるように配置している。	・急な欠員時の対応体制が十分でない点を改善していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・個人の荷物管理ができるようにロッカーを活用している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・室内の空調管理、食事前や外出後の手洗い消毒を継続している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・好きな時に子供たちが自由に使えるようになっている。	・個別の活動スペースを確保し、より良い過ごし方ができるよう検討する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		・全職員で情報共有を行いプログラムの改善に取り組んでいる。	・具体的な課題解決に向けたアイデアの収集と振り返りの機会を増やしていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・保護者アンケートを実施し、いただいたコメントにお応えできるよう努めている。	・保護者のコメントを分析し、具体的な改善策をフィードバックできる機会を設ける。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・毎日の振り返りと毎月のミーティングを実施している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		・今後、必要性を検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・全職員を対象に研修を行っている。	・専門性の高い研修を取り入れたり、オンライン研修などで柔軟な受講方法を検討する。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		・保護者への伝達やSNSでのアップがされている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		・保護者からの聞き取りと、子どもの特性を理解した支援計画を作成している。	・発達状況や保護者のニーズの変化を随時計画に反映させる。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		・偏った見解にならないよう気を付けて計画作成に努めている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・毎日のミーティングで支援方針を確認できている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		・活動の様子や保護者からの聞き取りにより確認をおこなっている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		・自由遊び、設定遊び、個別課題など、様々な活動を組み合わせている。	・ガイドラインに基づいて具体的な取り組み内容を明確にし、計画に一貫性を持たせる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		・全職員で意見を出し合い立案している。	・子ども一人ひとりの特性や目標を踏まえた支援計画との整合性をしっかり確認する。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・日々の様子を踏まえてプログラムを立案できている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		・1対1で対応する場面と、集団で活動する場面の両方で個別に設定している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		・毎日、全職員が確認できている。	・その日の状況に合わせ、役割分担の最終確認を行って行く。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	3	・振り返りを行い必要な対応ができている。	・次回の支援時に個別支援計画や活動プログラムへ反映できる仕組みを作る。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・利用者それぞれの記録を残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		・日々の振り返りを参考に見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8		・4つの基本活動を個別支援計画に反映させている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		・利用者それぞれの特性を理解し、自己決定できる環境や場面の配慮をしている。	・選択時の提示方法を子どもの理解度や興味に合わせて工夫する。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		・児発管と担当者がともに出席する機会もある。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		・地域のネットワークづくりを目指している。	・定期的に事例検討の場を設けてネットワークの効果的な活用を目指す。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		・必要に応じ、保護者の了承を得たうえで学校と連携を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	6		・今後、支援内容の引き継ぎを円滑に行える体制を整えていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		・保護者の要望に応じて対応している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	3		・専門的な助言を定期的な受けられる体制を整えていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	4		・今後は、様々な児童との交流や地域の子供たちと継続的に活動していく場を設ける。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	6		・今後、必要性を検討する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		・面談や送迎時、連絡帳を通じてコミュニケーションを取っている。	・定期的な面談を継続し、より深いニーズや課題を把握する。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	5	・対応や仕方についてアドバイスできている。	・保護者の対応力向上のサポートのため、ペアレント・トレーニングや家族支援プログラムへの参加機会を提供していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		・資料を用いて説明できている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	1	・保護者面談や子どもの日々のアセスメントを基に個別支援計画の作成をしている。	・今後も本人の意思をより反映させた計画づくりを進める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		・計画内容を説明し同意いただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・対面やメールなどで相談支援を行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	7		・保護者同士や家族全体の理解や繋がりを深める場を設ける。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		・苦情があれば迅速な対応ができています。	・その場だけの解決で終わらず、経過を見守り必要に応じて対応を継続する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	2	・活動報告などSNS等を使い発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		・取り扱いには十分注意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		・必要に応じた対応で意思疎通を図っている。	・子どもの特性に応じた多様なコミュニケーション手段を導入を検討する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	6	・事業所行事に招待できていなかった。	・地域住民との継続的な関係づくりを目指す。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		・定期的を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		・年2回実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		・保護者面談時に確認している。	・服薬や発作状況の変化があった際、迅速に情報共有できるよう確認体制を見直す。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		・保護者経由で医師の指示を実施している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		・地震や火災を想定した避難訓練を行っている。	・訓練実施後の課題や改善点を明確化し、災害時の対応力向上を図る。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	3	・家族との周知が不足している。	・安全計画の内容を配布したり、訓練実施結果や改善点についても共有していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・事案が出た際は記録し、事業所全体で共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・全職員に周知、徹底している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		・個別支援計画に身体拘束の方針を明記している。	・方針や具体的な対応について、保護者だけでなく職員間でも定期的な振り返りを行っている。	